

庁議における審議要旨	
日時	
令和8年6月25日	午後3時00分～午後4時20分
場所	
庁議室	
出席者	
区長、副区長、副区長、教育長、政策企画部長、総務部長、危機管理部長、危機管理監、地域文化スポーツ部長、産業経済部長、福祉部長、健康部長、子ども家庭部長、防災都市づくり部長、防災都市づくり監、会計管理部長、教育部長、政策企画課長、企画担当課長、財政課長、広報・シティプロモーション課長、総務課長	
付議案件	
1 第二日暮里小学校の学級数増加への対応方針の変更について 2 (仮称)東尾久一丁目学童クラブの整備について 3 精神障害者地域生活支援センターの建替えについて 4 シルバーパス購入費助成事業の実施状況について	
審議の要旨	
1 第二日暮里小学校の学級数増加への対応方針の変更について 教育施設計画担当課長から資料に基づき説明があり、了承。	
2 (仮称)東尾久一丁目学童クラブの整備について 登校・放課後サポート課長から資料に基づき説明があり、了承。	
3 精神障害者地域生活支援センターの建替えについて 障害者施設担当課長から資料に基づき説明があり、了承。 ○建替えする際の建物の規模はどの程度とする想定か。 ・ 現時点では同規模程度とする想定であるが、サービスの充実等も含めて今後検討していく。	
4 シルバーパス購入費助成事業の実施状況について 高齢者福祉課長から資料に基づき説明があり、了承。	
配付資料	
1 第二日暮里小学校の学級数増加への対応方針の変更について 2 (仮称)東尾久一丁目学童クラブの整備について 3 精神障害者地域生活支援センターの建替えについて 4 シルバーパス購入費助成事業の実施状況について	

庁議付議予定案件
(令和8年6月25日 午後 3時00分～)

- 1 第二日暮里小学校の学級数増加への対応方針の変更について

(説明者 教育施設計画担当課長)

- 2 (仮称) 東尾久一丁目学童クラブの整備について

(説明者 登校・放課後サポート課長)

- 3 精神障害者地域生活支援センターの建替えについて

(説明者 障害者施設担当課長)

- 4 シルバーパス購入費助成事業の実施状況について

(説明者 高齢者福祉課長)

○ 今後の庁議日程

7月 8日(水) 午後 2時00分～

7月16日(木) 午前 10時45分～

第二日暮里小学校の学級数増加への対応方針の変更について

内 容	1 概要 令和8年5月14日の文教・子育て支援委員会にて報告した、第二日暮里小学校の学級数増加への対応について、対応方針を変更するためご報告する。 2 第二日暮里小学校に係る対応方針の変更 第二日暮里小学校については、令和7年度までの推計では、令和15年度以降、12学級から18学級へ増加する見込みであったため、増築校舎の建設が必要であった。しかし、令和8年度の推計では、令和20年度に15学級、その後も最大16学級にとどまる見通しとなり学級数が減少した。 学級数の減少の要因としては、学区域内的の0歳から5歳人口が令和7年度に比べ70人程度減少したこと、また、入学率が1.7%減少したことなどによる（別紙1～2のとおり）。このため、令和11年度の供用開始を想定し、令和9年度から予定していた第二日暮里小学校の増築校舎の建設については1年延期し、可能な限り現状の教育環境の確保に努めることとする。 今後の工事開始時期については、令和9年度の推計動向を踏まえ判断する。 【学級数の推計結果】 <table><tr><td></td><td>年度 (令和)</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td></tr><tr><td>R7</td><td rowspan="2">学級数</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td></tr><tr><td>R8</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td><td>15</td><td>14</td><td>13</td></tr></table> ※第二日暮里小学校の教室数(最大)は14教室 <参考>変更前のスケジュール 令和7年度 基本設計 令和8年度 実施設計 令和9～10年度 建設工事 令和11年度 供用開始																						年度 (令和)	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	R7	学級数	12	12	12	13	14	15	16	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	R8	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	14	15	16	16	16	15	14	13
		年度 (令和)	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26																																																																
	R7	学級数	12	12	12	13	14	15	16	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18																																																																
	R8		12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	14	15	16	16	16	15	14	13																																																																
	今 後 の 予 定	令和8年7月15日 文教・子育て支援委員会																																																																																				
議会等報告		開示予定日				区報				HP				記者会見																																																																								
7月15日 文教・子育て支援委員会		委員会報告後				—				—				—																																																																								

<<1. 小学校の学級数の推移>>

……教室不足が想定される年度

学校名	教室数 (最大)	3年度 ⇒実績	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 ⇒推計結果	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度 ⇒未出生の児童数を推計で算出した上での推計結果	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
瑞光	20	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
第二瑞光	12	8	8	9	9	10	9	10	10	10	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
第三瑞光	26	21	22	22	22	22	21	20	19	19	19	19	19	20	21	21	22	23	24	24	24	24	24	24	23	22
汐入	26	21 (3)	22 (3)	22 (3)	23 (3)	23 (3)	23 (3)	22	21	20	19	17	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18
汐入東	23	21	20	18	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
第六瑞光	7	6 (4)	6 (4)	6 (4)	6 (4)	6 (4)	6 (4)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
峡田	25	12 (3)	12 (5)	12 (5)	12 (5)	12 (5)	13 (5)	13	13	14	15	16	16	18	20	21	22	23	24	24	24	24	24	24	23	22
第二峡田	14	12	12	12	12	11	10	10	10	9	9	10	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
第三峡田	9	6 (4)	6 (4)	6 (4)	6 (4)	6 (4)	6 (4)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
第四峡田	15	12	12	13	13	12	12	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13	14	13	13	13	13	13	12	12	12
第五峡田	19	14	15	15	15	15	15	14	13	12	12	12	12	10	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
第七峡田	14	12	12	12	11	12	12	12	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
第九峡田	13	6	7	8	8	9	9	9	9	10	11	11	12	14	15	16	17	18	18	18	18	17	16	15	14	13
尾久	18	14	14	14	14	14	14	14	14	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
尾久西	19	13 (3)	14 (3)	15 (3)	16 (3)	17 (3)	18 (3)	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18
尾久第六	15	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
赤土	21	17	18	19	19	19	19	18	18	18	18	19	19	19	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18
大門	13	8 (3)	9 (2)	10 (3)	11 (2)	12 (3)	13 (4)	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
尾久宮前	15	12	12	12	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
第一日暮里	8	6	6	6	7	7	6	6	6	6	7	7	8	8	8	9	9	10	10	11	11	10	9	8	7	6
第二日暮里	14	10	9	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	14	15	16	16	16	15	14	13	12
第三日暮里	18	13	14	14	14	14	13 (1)	13	14	15	15	15	15	16	16	16	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18
第六日暮里	8	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	11	12	12	12	13	14	15	16	17	18	18	18	17
ひぐらし	24	17	17	17	17	18	19	19	19	20	20	20	20	21	21	22	22	23	23	24	23	22	22	21	20	19

※35人学級制(小学校については、令和7年度において全学年が35人学級となっている。)及び再開発事業の影響を反映した学級数である。

※()は、特別支援学級数を反映した。なお、第三峡田小学校は通級児童学級数を反映した。

※再開発事業について、三河島駅前北(通学区域:峡田小学校(ひぐらし小学校から変更する予定))は令和12年度入居開始、西日暮里駅前(通学区域:第一日暮里小学校)は令和15年度入居開始を想定した。

※西日暮里再開発の影響を鑑み、通学区域を第一日暮里小学校から第六日暮里小学校へ変更した。

<<2. 中学校の学級数の推移>>

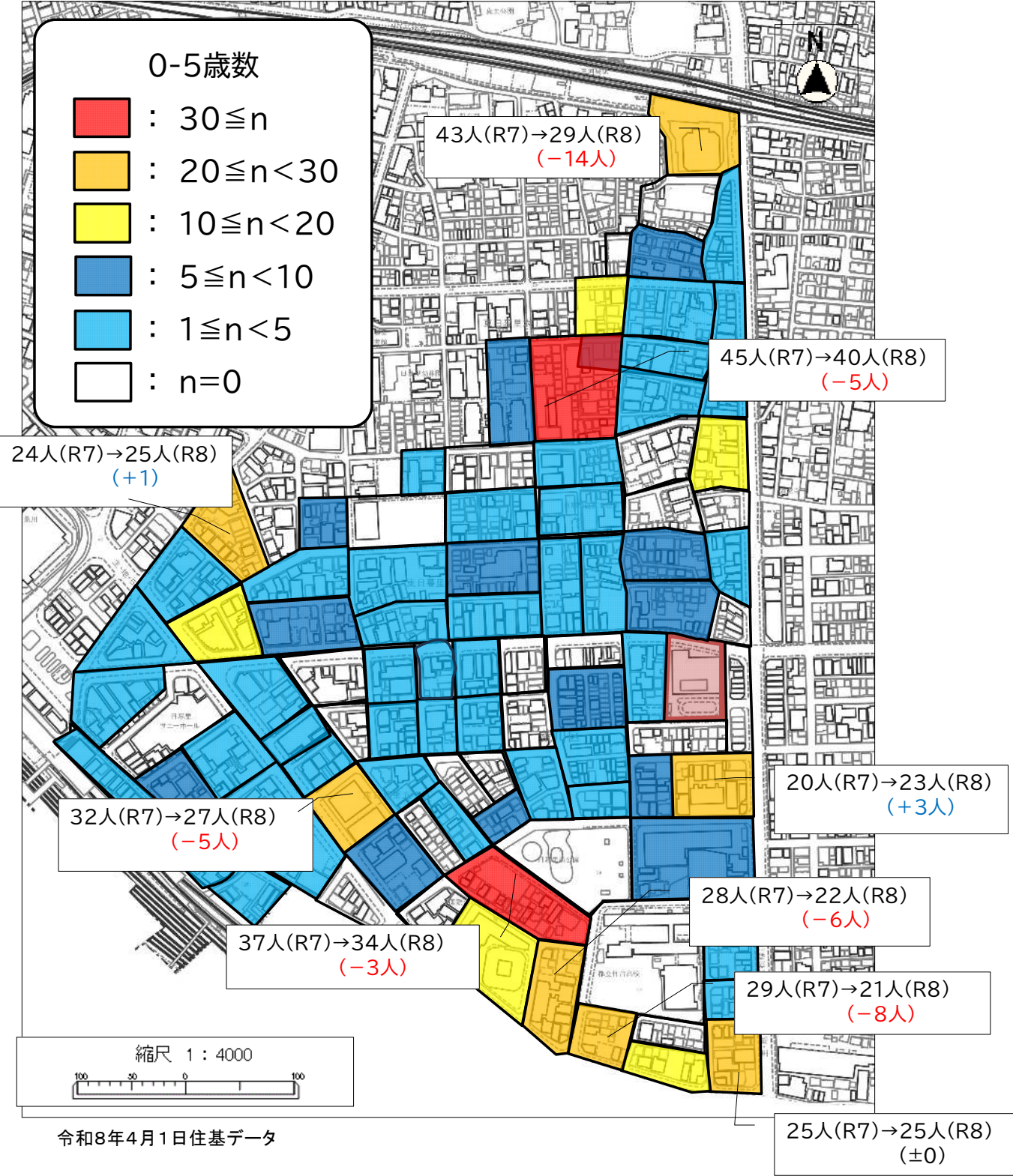
学校名	教室数 (最大)	3年度 ⇒実績	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 10年度 ⇒推計結果	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度 22年度 23年度 24年度 25年度 26年度 27年度 ⇒未出生の児童数を推計で算出した上での推計結果							
第一	13	9 (4)	10 (4)	9 (4)	9 (4)	9 (3)	10 (3)	11	11	11	11	11	10	9	9	9	10	11	11	11	11	12	12	12	12	12
第三	16	14 (1)	14 (2)	14 (2)	13 (1)	12 (1)	12 (2)	12	12	12	11	10	9	9	9	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6
第四	13	9 (2)	9 (3)	9 (3)	9 (3)	9 (3)	9 (3)	10	11	11	11	10	10	11	11	11	11	12	13	14	15	15	16	17	18	17
第五	12	8	8	9	9	7	6	6	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	7	8	9	9	9	9	9	9
第七	13	9	9	7	7	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
第九	10	8	8	7	6	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
尾久八幡	15	12 (3)	11 (3)	12 (3)	13 (3)	12 (2)	13 (2)	13	14	14	15	14	13	12	12	12	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12
南千住第二	16	12	13	12	13	13	13	13	14	14	13	12	12	12	12	13	13	13	13	14	15	15	15	15	15	15
原	13	8	9	9	9	9	10	10	11	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
諏訪台	18	13	13	14	14	13	15	16	17	16	16	15	16	16	17	17	18	18	19	19	20	19	20	21	21	21

※35人学級制(中学校については、令和8年度以降1年生から段階的に導入されるものと想定した学級数である。)及び再開発事業の影響を反映した学級数である。

※()は、特別支援学級数を反映した。

※再開発事業について、三河島駅前北(通学区域:第四中学校(諏訪台中学校から変更する予定))は令和12年度入居開始、西日暮里駅前(通学区域:諏訪台中学校)は令和15年度入居開始を想定した。

第二日暮里小学校学区内の未就学児の推移(R7-R8)



【各出生年別の人口増減】

(単位 : 人)

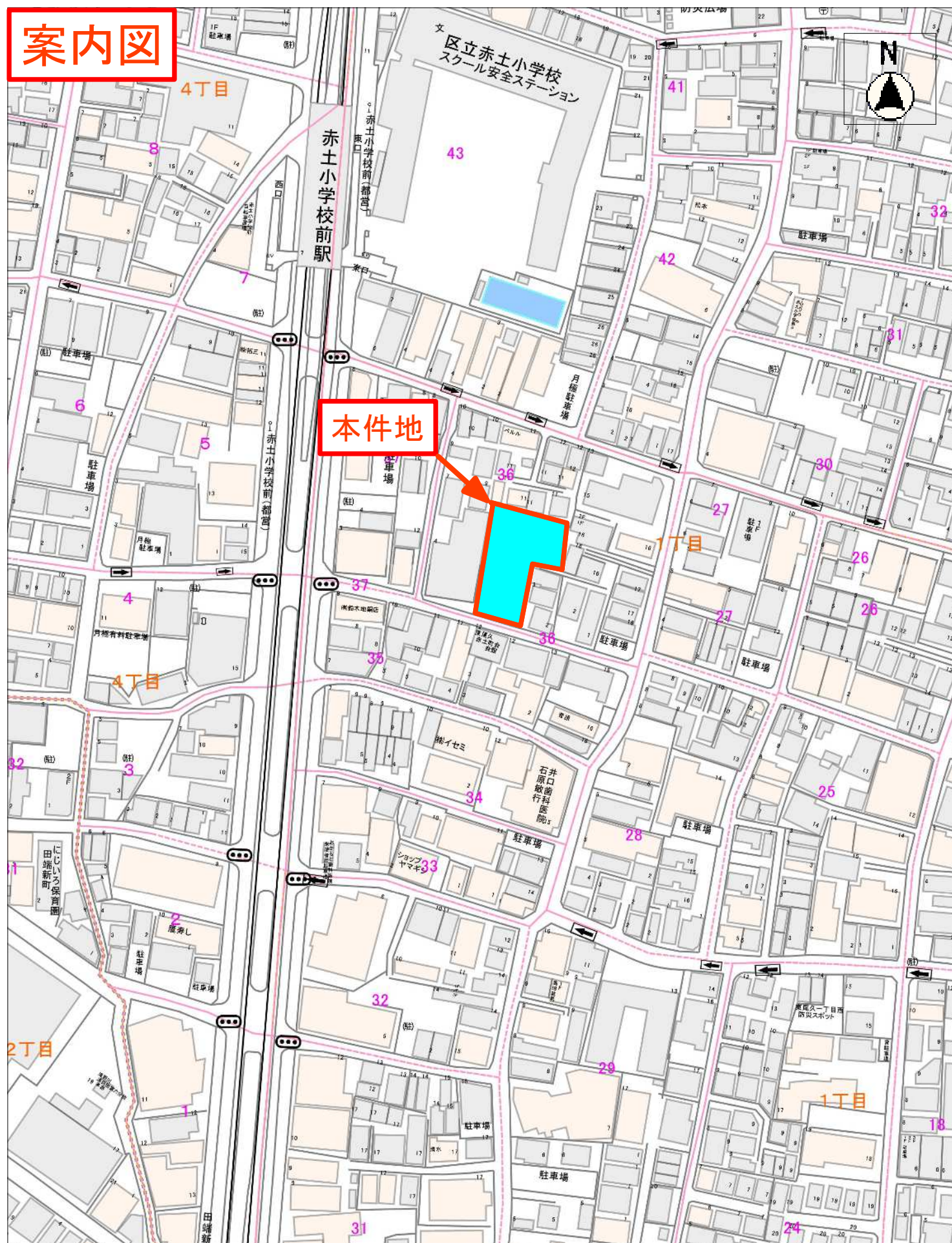
	R14入学	R13入学	R12入学	R11入学	R10入学	来年度新1年R9入学
	R7生(0歳)	R6生(1歳)	R5生(2歳)	R4生(3歳)	R3生(4歳)	R2生(5歳)
R7 学齢数	—	107	104	99	94	89
R8 学齢数	82	81	90	80	92	76
増減数	—	-26	-14	-19	-2	-13
増減合計	-74					

庁議説明資料	
8.6.25	教育委員会事務局 登校・放課後サポート課

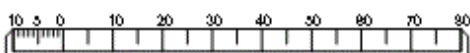
(仮称) 東尾久一丁目学童クラブの整備について

内 容	1 概要 赤土小学童クラブは、継続的に定員超過している状況にあり、この傾向は当面継続することが見込まれる。また、学区域外の学童クラブに利用調整を行う中で、距離等を理由に利用を辞退する児童も発生している状況に有り、児童の安全確保及び利便性の観点から、近隣の尾久幼稚園跡地に新たに「(仮称) 東尾久一丁目学童クラブ」を整備する。			
	2 施設概要 (1) 名 称 (仮称) 東尾久一丁目学童クラブ (2) 所在地番 荒川区東尾久一丁目4 6 3 番2 (3) 敷地面積 約708.6㎡ (4) 延床面積 820㎡程度 (5) 構 造 鉄骨造、地上3階建て (6) 主な機能 1階 学童クラブ事務室、職員用更衣室、倉庫、園庭、ピロティ（地域交流スペースとしても活用） 2階 学童クラブ室1・2、ホール、静養室 3階 学童クラブ室3、ホール			
	3 整備スケジュール 令和8年度 解体工事、基本・実施設計 令和9年度 建築工事着手 令和10年度 竣工 令和11年度 学童クラブ運用開始			
	4 その他 これまで尾久幼稚園が地元町会の行事等にも活用されていた経緯を踏まえ、引き続き地域に開かれた施設として活用できるよう配慮する。			
	今 後 の 予 定 令和8年7月15日 文教・子育て支援委員会			
議会等報告	開示予定日	区報	HP	記者会見
7月15日 文教・子育て支援委員会	—	—	—	—

案内図

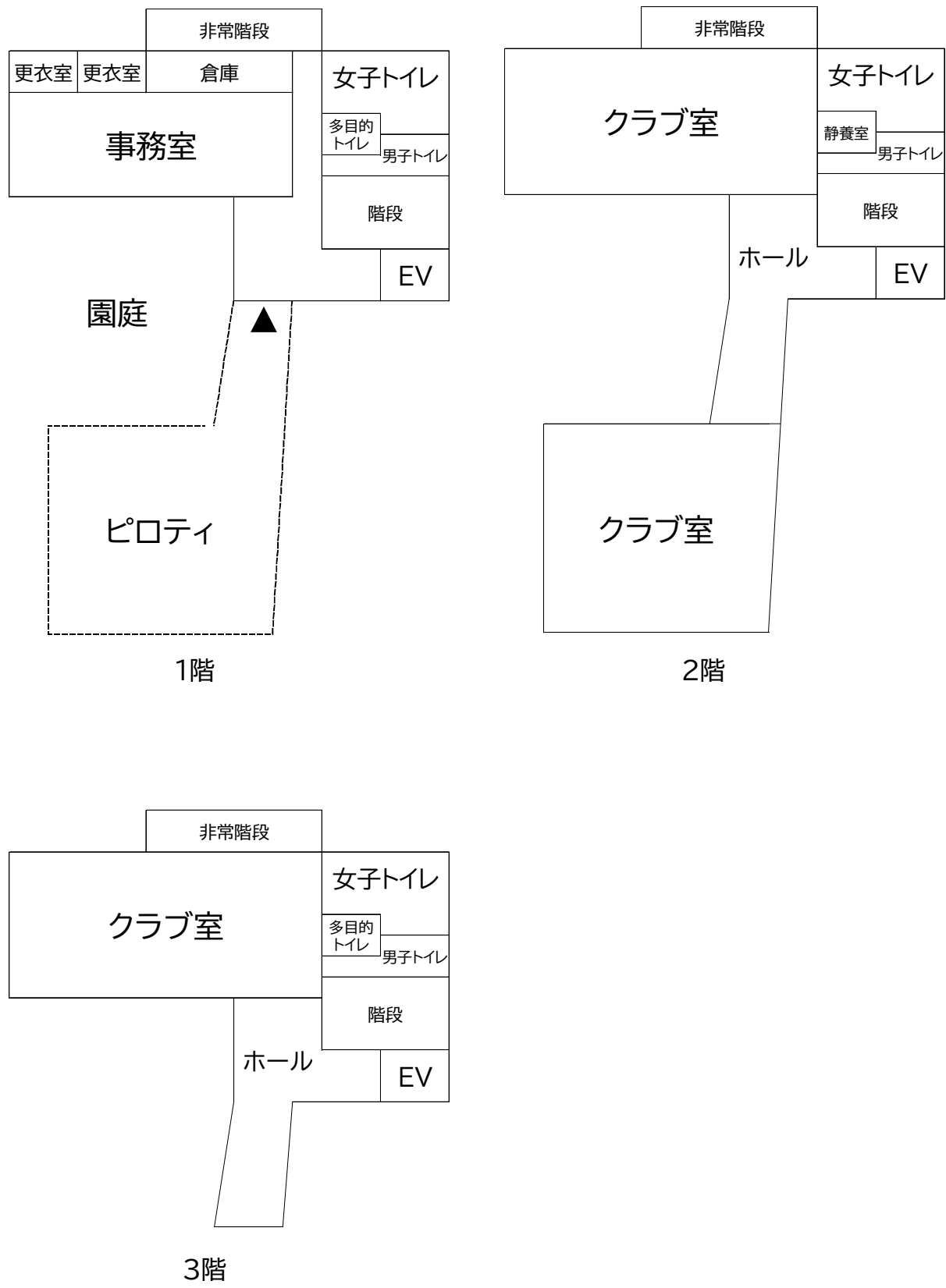


縮尺 1 : 1500



(仮称)東尾久一丁目学童クラブ 計画イメージ(案)

○フロア図



庁議説明資料	
08.06.25	福祉部障害者福祉課

精神障害者地域生活支援センターの建替えについて

内 容

1 概要

指定管理施設である精神障害者・地域生活支援センター「アゼリア」（以下「アゼリア」という。）の現地建替えに係る今後の計画について報告する。

2 経緯

施設は昭和44年に竣工し、平成15年1月より精神障がい者の日常生活の支援や相談サービスの提供と地域交流及び社会参加を促進する区の中核的拠点の機能を持つ指定管理施設として、平成18年度から社会福祉法人トラムあらかわが運営を行っている。

施設は築57年が経過したことに加え、地域移行支援等の新たなサービスの充実と精神障がい者の支援拠点機能の強化を目的として、現地に於て建替えを実施する。

3 アゼリア施設概要

施設名（指定管理施設）	荒川区精神障害者・地域生活支援センター		
所在地	東尾久5－45－11 2階、3階、4階 （1階 宮の前ひろば館併設）		
指定管理者	社会福祉法人 トラムあらかわ		
指定管理期間	令和6年4月から令和11年3月まで		
竣工年月	昭和44年3月		
面積	敷地 308㎡／延床 460㎡		
	■フロア内訳		
		建替前（645㎡）※EVなし	
	4F	プログラム室、倉庫	（93㎡）
	3F	喫茶コーナー、電話相談室	（154㎡）
	2F	事務室、会議室、倉庫等	（193㎡）
	1F	宮の前ひろば館 アゼリア玄関	（205㎡） （20㎡）

4 事業計画

（1）事業スケジュール

令和 9年度 基本設計、アゼリア仮移転、宮の前ひろば館閉館

令和10年度 実施設計、解体工事

令和11年度 建設工事

令和12年度 建設工事、竣工

令和13年度 新施設運用開始

（2）建替え期間中の対応について

当初計画では、尾久幼稚園跡地に新設を予定している学童クラブ（以下「新学童クラブ」という。）の建物内へ仮移転をする方針で検討を進めてきたが、

アゼリアの占有部分が現在の施設面積の約 2 分の 1 となる見込みであり、事業の一部が制約されるという課題があった。

そうした状況の中で、介護民間事業所の誘致を含め、様々な観点から活用策を検討してきたものの、将来の具体的な活用策が決定していない町屋在宅高齢者通所サービスセンター跡（以下「SC跡」という。）について、改めてアゼリアの建替え時の仮移転先候補としての可能性を検討したところ、床面積や設備面からみて制約なく現行の事業を実施することが可能であることに加え、新学童クラブの建物の竣工を待たずにアゼリアの現地建替工事が着手できることにより、新施設の運用開始時期を 1 年前倒しできる等のメリットがあることが明らかになった。

また、新学童クラブとしても、開所時から建物全体を学童クラブとして運営できることにより、今後の流動的な利用児童数の増減にも柔軟に対応することができることに加え、アゼリア退所後の改修工事が不要となるなどのメリットがあった。

以上のことを踏まえ、アゼリアの建替え期間中の仮移転先を SC 跡に変更する。

■【参考】SC跡 施設概要

施設名	町屋七丁目住宅
所在地	町屋 7-2-15 地下1階、1階、2階 (3階から8階まで区営住宅)
竣工年月	平成5年2月
面積	延床 約900㎡

5 その他

なお、施設1階に併設する宮の前ひろば館は閉館し、アゼリア建替後、交流スペースを代替機能として活用することを検討する。

今後の予定	令和8年7月14日 福祉・区民生活委員会			
議会等報告	開示予定日	区報	HP	記者会見
7月14日 福祉・区民生活委員会	委員会報告後	—	—	—

庁議説明資料	
8.6.25	福祉部高齢者福祉課

シルバーパス購入費助成事業の実施状況について

内 容

1 概要

シルバーパス購入費助成事業（以下「本事業」という。）の実施状況について報告する。

2 令和7年度の実施結果について

(1) 事業概要

① 目的

高齢者のフレイル予防や健康寿命延伸のための外出支援

② 対象者

満70歳以上で前年の合計所得金額135万円超の区民

③ 助成額

11,000円（自己負担が1,000円となるよう助成を行う。）

④ 申請方法

郵送またはオンラインによる申請

⑤ 申請期間

令和7年10月1日～令和8年3月31日

(2) 実施結果

① 申請者数

3,551名（郵送：2,685名 オンライン：866名）

② 交付決定者数

3,292名

③ 予算額・決算額

	予算額	決算額
事業費	33,660千円	36,212千円
事務費	19,605千円	15,664千円
計	53,265千円	51,876千円

※事務費には、人材派遣費、コールセンター業務委託費、印刷製本費、郵送料等に係る費用を含む。

3 アンケート調査の集計結果について

利用状況や本事業の効果を把握し、事業評価や今後の事業改善等に反映させるため、アンケート調査（別紙1）を実施した。

(1) 調査方法

① 対象者数：814名

交付決定者のうち、区がメールアドレスを把握している全714名と、それ以外の申請者から無作為抽出した100名

② 実施方法

配付：メールおよび郵送 回収：LoGo フォーム又は郵送

③ 調査期間

令和8年4月15日～令和8年5月11日

④ 回収率

：478件を回収し、回収率は58.7%

(2) 調査結果の概要

主な調査結果は、以下のとおりであった。

項目	主な調査結果
シルバーパス購入歴	「初めて購入した」が約7割（67.2%）であった。
シルバーパス購入後の外出頻度の変化	購入前の外出頻度が「ほとんど外出しなかった」と答えた層は、購入後、「週3日以上増えた」（15.3%）

		と「週１～２日増えた」（62.7％）を合わせた割合が約８割（78.0％）であった。		
	シルバーパス利用による生活の充実感の変化	「とても向上した」（45.0％）と「やや向上した」（43.3％）を合わせた割合は約９割（88.3％）であった。		
	本事業がシルバーパス購入のきっかけになったか	「とてもなった」（88.3％）と「ややなった」（6.9％）を合わせて９割半ば（95.2％）であった。		
	本事業の申請手続きについて	「簡単だった」が6割弱（58.8％）で最も多く、「普通」（37.9％）を合わせると９割以上に達した。		
	本事業の満足度	「とても満足」（75.9％）と「満足」（22.4％）を合わせると９割以上に達した。		
	4 令和8年度の実施について （１） 区の助成事業について 令和8年度も昨年度同様の運用方法にて、高齢者のフレイル予防や健康寿命延伸のための外出支援を実施する。 （２） 改善点について ・ 上記調査において、申請手続きが「難しい」と感じた層も一定数存在したことから、引き続き、きめ細かなフォローアップ体制（電話相談、窓口相談）を継続する。 ・ 郵送ではなく電子申請による手続きを推進するため、「高齢者スマートフォン購入助成事業」や「まちなかデジタルサポートデスク」を一層周知し、高齢者のデジタルデバインド解消に向けて取り組む。 （３） ICカード化への対応について 令和8年10月よりシルバーパスのICカード化（パスモと一体化）が予定されている。これに伴い、区民からの問い合わせが増加すると予想されるため、東京都や一般社団法人東京バス協会と密接に連携し、専用コールセンターや郵便局等に設置される相談窓口を案内するなど、対応していく。			
今 後 の 予 定	令和8年7月14日 福祉・区民生活委員会			
議会等報告	開示予定日	区報	HP	記者会見
7月14日 福祉・区民生活委員会	委員会報告後	-	-	-

荒川区シルバーパス購入費助成 に関するアンケート調査

《 集計結果 》

令和8年6月

荒川区

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、東京都シルバーパスの利用状況や助成金制度の効果を把握し、事業評価や今後の事業見直しの参考資料とするものである。

2. 調査の概要

(1) 主なアンケート項目

- シルバーパスの購入歴
 - シルバーパスの利用頻度
 - シルバーパスを利用した外出の目的
 - シルバーパスで利用する公共交通機関
 - シルバーパス購入前後の変化（外出頻度、生活の充実感）
 - 助成制度について（購入のきっかけ、申請方法、満足度、自由意見）
- ※詳細は、別添の調査票を参照。

(2) 調査の設計及び調査方法

調査区域	荒川区全域
母集団	令和7年度シルバーパス購入費助成金交付決定者 3,292 名
配布数（標本数）	814 名 (1)オンライン申請者のうち、区がメールアドレスを把握している全 714 名 (2)それ以外の申請者のなかから無作為抽出した 100 名 ※年齢（5 区分）・地区（7 地区）に分類し対象者を抽出
調査期間	令和8年4月15日～令和8年5月11日
配布方法	(1)メール配布、(2)郵送配布
回収方法	オンライン（LoGo フォーム）又は郵送による回収
調査票	別添の調査票（LoGo フォーム・紙）を使用

(3) 回収結果

配布数 814 件に対して、478 件を回収し、回収率は 58.7%となった。

○回答方法別

回収方法	回収数	構成比
オンライン回答（LoGo フォーム）	403	84.3%
郵送回答	75	15.7%
合計	478	100%

○年齢構成

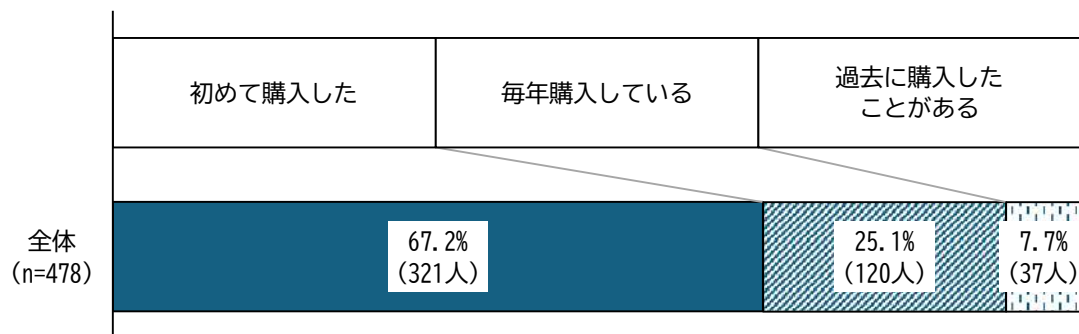
年令	対象人数	構成比	配布数	回収数	回収率
70 歳～74 歳	1,247	37.9%	425	259	60.9%
75 歳～79 歳	1,184	36.0%	268	161	60.1%
80 歳～84 歳	550	16.7%	82	43	52.4%
85 歳～89 歳	222	6.7%	22	10	45.5%
90 歳以上	89	2.7%	17	5	29.4%
合計	3,292	100%	814	478	

※「対象人数」は、令和7年度シルバーパス購入費助成金の交付決定者数（母集団）。

II 集計・分析

シルバーパスの購入歴

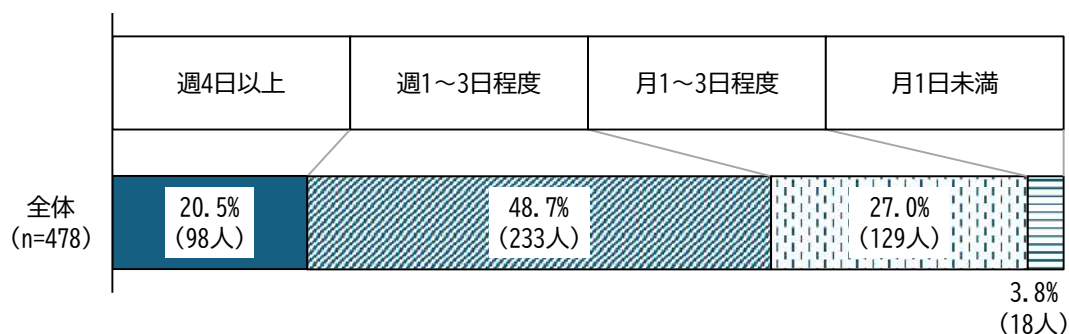
問2 これまでにシルバーパスを購入したことはありますか？（いずれか1つに○）



○シルバーパスの購入歴について聞いたところ、「初めて購入した」が7割近く（67.2%）で最も高く、利用者の多くが新規購入者であることがわかった。次いで「毎年購入している」が2割半ば（25.1%）であった。

シルバーパスの利用頻度

問3 シルバーパスをどのくらいの頻度で利用していますか？（いずれか1つに○）

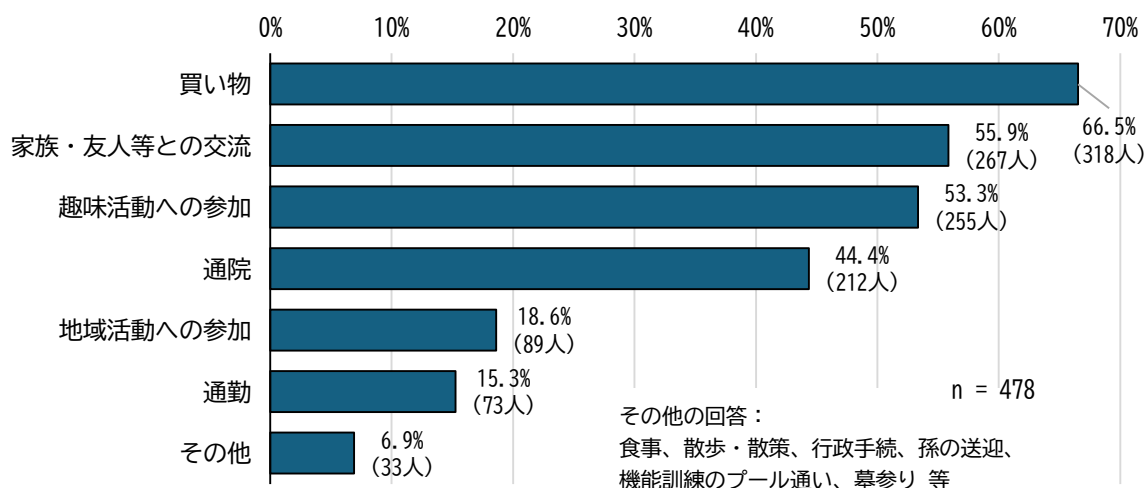


○シルバーパスの利用頻度について聞いたところ、「週1～3日程度」（48.7％）が最も多く、「週4日以上」（20.5％）と「週1～3日程度」（48.7％）を合わせた「週1日以上の利用」の割合が7割近く（69.2％）に達した。

○一方、「月1～3日程度」（27.0％）と「月1日未満」（3.8％）を合わせた「週1日未満の利用」の割合は3割（30.8％）であった。

シルバーパスを利用した外出の目的

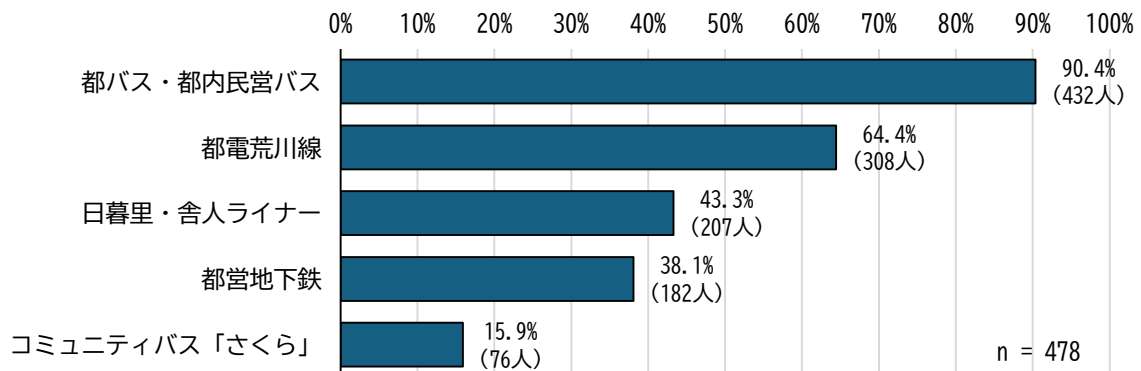
問4 シルバーパスを利用した外出の主な目的は何ですか？（該当するものすべてに○）



○シルバーパスを利用した外出の主な目的について聞いたところ（複数回答）、「買い物」（66.5％）が最も多く、次いで「家族・友人等との交流」（55.9％）、「趣味活動への参加」（53.3％）、「通院」（44.4％）の順となった。

よく利用する公共交通機関

問5 シルバーパスでよく利用する公共交通機関は何ですか？（該当するものすべてに○）

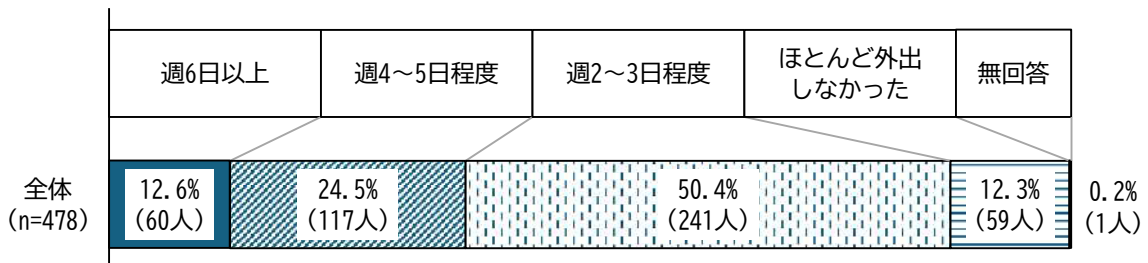


○シルバーパスでよく利用する公共交通機関について聞いたところ（複数回答）、「都バス・都内民営バス」が9割超（90.4%）と圧倒的に多く、次いで「都電荒川線」（64.4%）、「日暮里・舎人ライナー」（43.3%）、「都営地下鉄」（38.1%）の順となった。

シルバーパス購入前の外出頻度

問6（1） シルバーパス購入前は、週にどのくらい外出していましたか？
（いずれか1つに○）

※以前からシルバーパスを購入していた方は、直近半年での変化をお答えください。



○シルバーパス購入前の外出頻度について聞いたところ、「週2～3日程度」が5割（50.4%）で最も多く、次いで「週4～5日程度」（24.5%）、「週6日以上」（12.6%）の順となった。

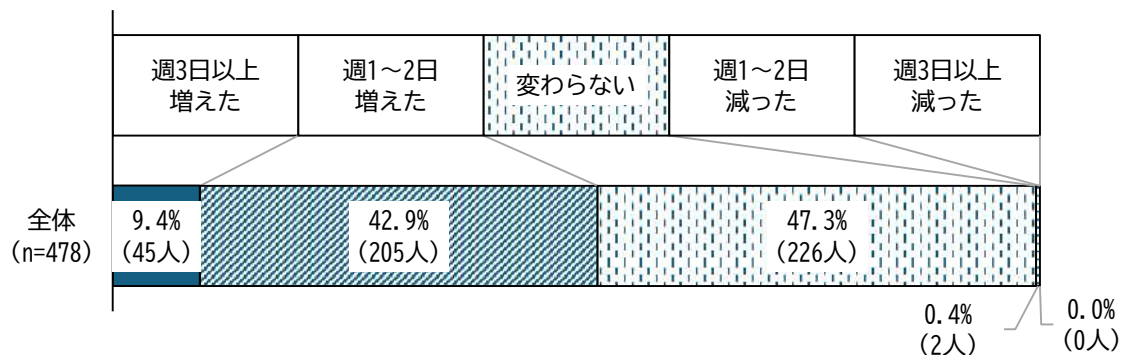
○一方、「ほとんど外出しなかった」層は1割強（12.3%）であった。

シルバーパス購入後の外出頻度の変化

問6（2） シルバーパス購入後、週当たりの外出頻度はどのように変わりましたか？

（いずれか1つに○）

※以前からシルバーパスを購入していた方は、直近半年での変化をお答えください。



○シルバーパス購入後の外出頻度の変化について聞いたところ、「週1～2日増えた」

（42.9%）と「週3日以上増えた」（9.4%）を合わせた《外出頻度が増えた》の割合が5割強（52.3%）となった。

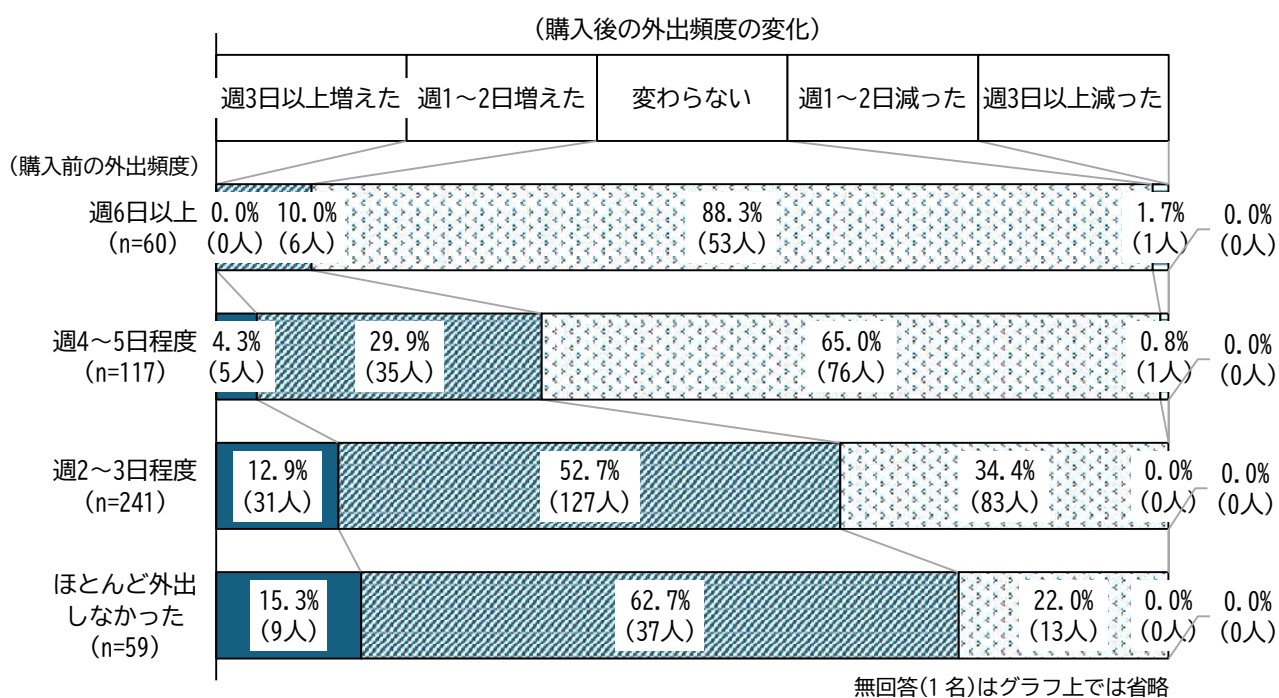
○一方、「変わらない」は5割弱（47.3%）であり、「週1～2日減った」（0.4%）と「週3日以上減った」（0.0%）を合わせた《外出頻度が減った》の割合（0.4%）はほぼなかった。

購入前の外出頻度別でみると、

○シルバーパス購入前の外出頻度が「週6日以上」の層は、購入後の外出頻度は「変わらない」が9割弱（88.3%）であった。また、購入前の外出頻度が「週4～5日程度」の層も、外出頻度は「変わらない」が6割半ば（65.0%）で最も多く、次いで「週1～2日増えた」が3割弱（29.9%）であった。

○一方、購入前の外出頻度が「週2～3日程度」の層は、外出頻度が「週1～2日増えた」が5割強（52.7%）で最も多く、「週3日以上増えた」も1割強（12.9%）あった。

○購入前に「ほとんど外出しなかった」層は、「週1～2日増えた」が6割強（62.7%）で最も多く、「週1～2日増えた」（62.7%）と「週3日以上増えた」（15.3%）を合わせた《外出頻度が増えた》は8割弱（78.0%）となった。

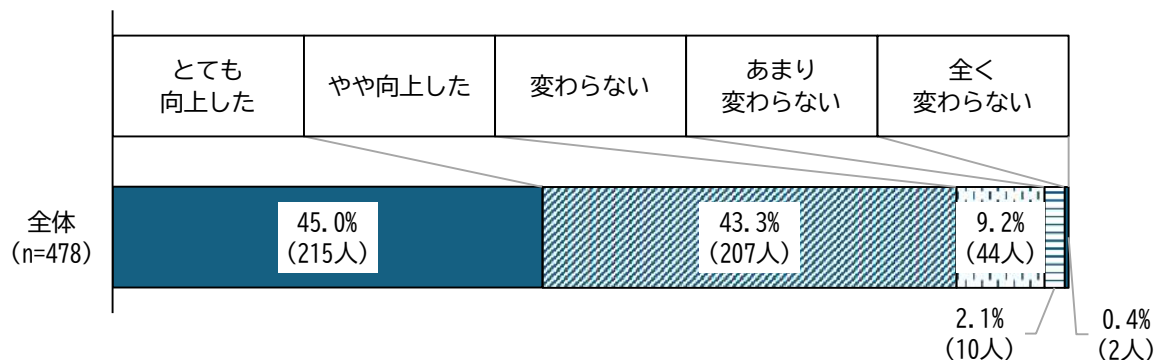


シルバーパス利用による生活の充実感の変化

問6（3） シルバーパス利用による外出で、生活の充実感に変化はありましたか？

（いずれか1つに○）

※以前からシルバーパスを購入していた方は、直近半年での変化をお答えください。

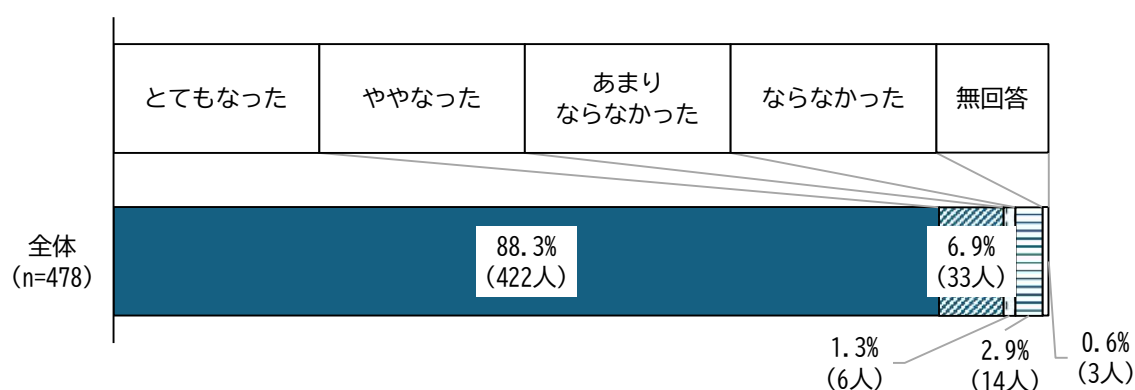


○シルバーパス利用による生活の充実感の変化について聞いたところ、「とても向上した」（45.0%）と「やや向上した」（43.3%）を合わせた「向上した」の割合は9割弱（88.3%）であった。

○一方、「変わらない」は1割未満（9.2%）であった。

シルバーパス購入のきっかけ

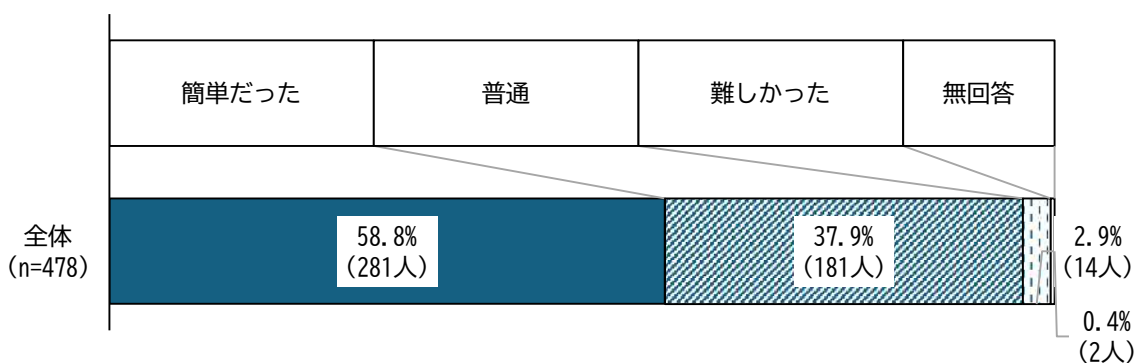
問7 助成金制度はシルバーパス購入のきっかけになりましたか？（いずれか1つに○）



○助成金制度がシルバーパス購入のきっかけになったか聞いたところ、「とてもなった」（88.3%）と「ややなった」（6.9%）を合わせた「きっかけになった」が9割半ば（95.2%）であった。

申請方法について

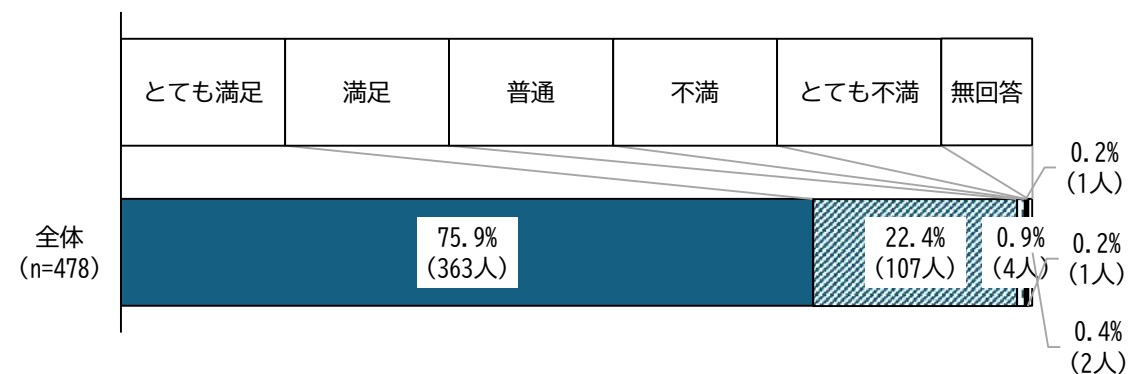
問 8 (1) シルバーパス購入費助成の申請方法はいかがでしたか？（いずれか1つに○）



○助成金の申請方法について聞いたところ、「簡単だった」が6割弱（58.8%）で最も多く、これに「普通」（37.9%）を合わせると、全体の9割以上（96.7%）に達した。一方、「難しかった」は1割未満（2.9%）であった。

助成金制度の満足度

問 8 (2) シルバーパス購入費助成の制度について満足していますか？（いずれか1つに○）



○助成金制度の満足度について聞いたところ、「とても満足」（75.9%）と「満足」（22.4%）を合わせた肯定的な回答は9割以上（98.3%）に達した。

○一方、否定的な回答（「不満」「とても不満」の合計、0.4%）はほぼ見られなかった。

助成金制度への意見

以下に代表的な意見を掲載する。

◆助成金への賛成意見

- 外出の楽しみや機会が増え、行動範囲も広がった。歩くことも増えて、体力向上・健康増進につながっている。
- 外出、外部活動への意欲が高まった。
- 車や自転車ではなく、電車やバス・徒歩での外出が増えた。安全で便利。
- 路線図や時刻表を見ながら目的地の行き方を研究することで脳トレにもなっている。
- 行った先でスマホを使い、バス停や時刻表を確認する習慣が身に付き、新しいルートにも挑戦しながら普段と違う景色を楽しんでいる。
- 今まででは値段が高く購入をあきらめていた。物価高騰のなか交通費の支援は助かっている。交通費の負担を考えずに外出するようになった。
- 股関節の痛みで近所のプールで機能訓練していたが閉鎖となり外出を諦めていたが、助成金制度で遠方のプールまで無料で通えるようになり、背中を押してもらえるような気持ちで頑張れている。

◆助成金への反対意見、慎重意見

- 応分負担の原則に反する。
- シルバーパス購入費助成より、がん検診の費用や子どもの教育・福祉へ使った方が良い。

◆助成金の申請方法・支給方法への意見

- 購入後の支給ではなく、最初から 1,000 円で購入できるようにしてほしい。
- 申請を簡素化してほしい。
- 申請から助成金の振り込みまでが遅い。

◆助成金の周知・広報への意見

- 助成金制度の存在をもっと広く周知してほしい。
- 今後も区報などを通じて、継続的な情報発信をしてほしい。

令和7年度荒川区シルバーパス購入費助成 アンケート調査

本アンケートは、シルバーパスの利用状況や助成金制度の効果を把握し、よりよいサービス提供に役立てることを目的としています。ご回答いただいた内容は、今後の施策の参考とさせていただきますので、アンケートにご協力をお願いいたします。

回答期限 令和8年5月11日(月)まで

1 年齢（該当するものに○）

- ① 70歳～74歳 ② 75歳～79歳 ③ 80歳～84歳 ④ 85歳～89歳
⑤ 90歳以上

2 これまでにシルバーパスを購入したことはありますか？（いずれか1つに○）

- ① 初めて購入した ② 毎年購入している ③ 過去に購入したことがある

3 シルバーパスをどのくらいの頻度で利用していますか？（いずれか1つに○）

- ① 週4日以上 ② 週1～3日程度 ③ 月1～3日程度 ④ 月1日未満

4 シルバーパスを利用した外出の主な目的は何ですか？（該当するものすべてに○）

- ① 家族・友人等との交流 ② 地域活動への参加 ③ 趣味活動への参加 ④ 買い物
⑤ 通院 ⑥ 通勤 ⑦ その他()

5 シルバーパスでよく利用する公共交通機関は何ですか？（該当するものすべてに○）

- ① 都バス・都内民営バス ② コミュニティバス「さくら」 ③ 都電荒川線
④ 日暮里・舎人ライナー ⑤ 都営地下鉄 ⑥ その他()

6 シルバーパス購入前後の変化について（いずれか1つに○）

※以前からシルバーパスを購入していた方は、直近半年での変化をお答えください。

(1) シルバーパス購入前は、週にどのくらい外出していましたか？

- ① 週6日以上 ② 週4～5日程度 ③ 週2～3日程度 ④ ほとんど外出しなかった

(2) シルバーパス購入後、週当たりの外出頻度はどのように変わりましたか？

- ① 週3日以上増えた ② 週1～2日増えた ③ 変わらない ④ 週1～2日減った
⑤ 週3日以上減った

(3) シルバーパス利用による外出で、生活の充実感に変化はありましたか？

- ① とても向上した ② やや向上した ③ 変わらない ④ あまり変わらない
⑤ 全く変わらない

裏面もあります

7 助成金制度はシルバーパス購入のきっかけになりましたか？（いずれか1つに○）

- ① とてもなった ② ややなった ③ あまりならなかった ④ ならなかった

8 助成金制度について（いずれか1つに○）

(1) シルバーパス購入費助成の申請方法はいかがでしたか？

- ① 簡単だった ② 普通 ③ 難しかった

(2) シルバーパス購入費助成の制度について満足していますか？

- ① とても満足 ② 満足 ③ 普通 ④ 不満 ⑤ とても不満

(3) 助成金制度でご意見があればご記入ください。（自由記述）

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
記入したアンケートは、同封の返信用封筒をご利用の上、ご返送ください。

【令和8年度シルバーパス購入費助成 実施のお知らせ】

- 令和7年度に実施したシルバーパス購入費助成につきましては、令和8年度も引き続き実施いたします。
- 新年度シルバーパス(有効期限2027年9月30日)の助成金申請受付は、令和8年10月上旬に開始する予定で準備を進めております。
- 助成額や申請方法などの詳細は、令和8年10月頃に発行される区報および区ホームページ等でご案内いたしますので、ご確認ください(個別の通知は行いません)。

【アンケートや助成事業に関する問合せ】

荒川区 福祉部 高齢者福祉課
シルバーパス購入費助成担当
電話 3802-3111(内線3776)

第10期荒川区高齢者プラン策定のためのアンケート調査報告書（一部抜粋）

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

（1）調査の実施概要

第10期荒川区高齢者プランの策定に向け、65歳以上の区民（要介護認定者を除く）を対象とした調査を実施。

（2）調査の期間 令和7年11月5日（水）～12月17日（水）

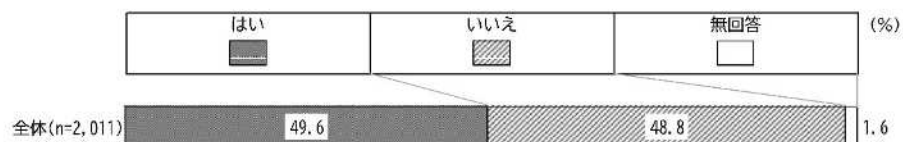
（3）調査の方法 配布：郵送 回収：郵送またはインターネット

（4）回収結果 配布数：3,000件 回収数：2,011件 回収率：67.0%

（13）シルバーパスの有無

問16 シルバーパスを持っていますか。（☑は1つ）

○シルバーパスを持っているかについては、「はい」が49.6%、「いいえ」が48.8%となっている。

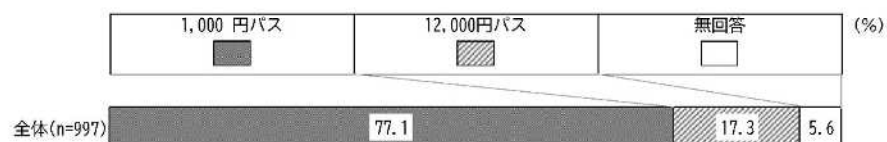


（14）シルバーパスの種別

【問16で「はい」（持っている）の方のみ】

問16-2 お持ちのシルバーパスの種別はどちらですか。（☑は1つ）

○シルバーパスの種別については、「1,000円パス」が77.1%、「12,000円パス」が17.3%となっている。

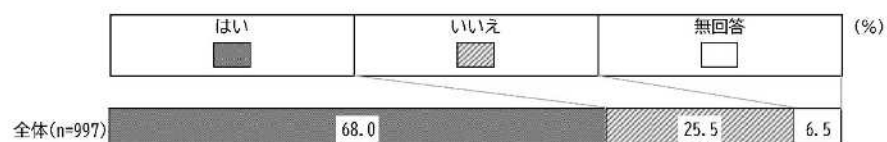


（15）外出機会の増加

【問16で「はい」（持っている）の方のみ】

問16-3 シルバーパスによって外出機会は増えましたか。（☑は1つ）

○シルバーパスによる外出機会の増加については、「はい」が68.0%、「いいえ」が25.5%となっている。



在宅介護実態調査

(1) 調査の実施概要

第10期荒川区高齢者プランの策定に向け、要支援、要介護認定者で、在宅で生活している区民を対象とした調査を実施。

(2) 調査の期間 令和7年10月21日(火)～12月1日(月)

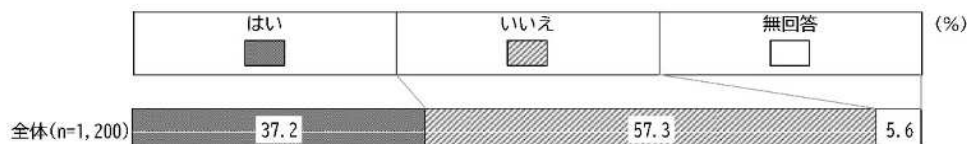
(3) 調査の方法 配布：郵送 回収：郵送またはインターネット

(4) 回収結果 配布数：2,000件 回収数：1,200件 回収率：60.0%

(22) シルバーパスの所持の有無

問40 シルバーパスを持っていますか。(☑は1つ)

○シルバーパスを持っているかについては、「はい」が37.2%、「いいえ」が57.3%となっている。

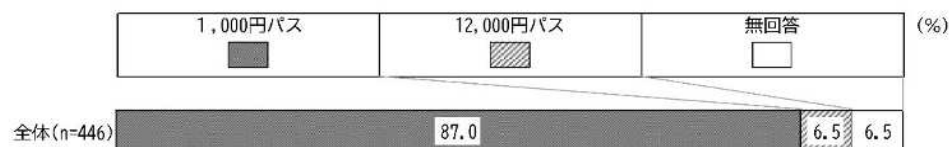


(23) シルバーパスの種別

【問40で「はい」の方のみ】

問40-2 お持ちのシルバーパスの種別はどちらですか。(☑は1つ)

○シルバーパスの種別については、「1,000円パス」が87.0%、「12,000円パス」が6.5%となっている。



(24) シルバーパスの所持による外出機会増加の有無

【問40で「はい」の方のみ】

問40-3 シルバーパスによって外出機会は増えましたか。(☑は1つ)

○シルバーパスによって外出機会が増えたかについては、「はい」が51.1%、「いいえ」が45.7%となっている。

